航空知識

滯　歐　雜　記　帳（その十九）

工學士　山　本　峰　雄[1]

14. ローストック訪問

フェルステンベルヒの國立滑翔機製作學校の見學を終つた翌日，8月24日の早朝6時40分ステッティナー停車場を出發する汽車の中は夏のシーズンの最後を樂しまうと云ふ海水浴客で賑つて居た。私はI商會のS氏と共に4卷のフィルムを收めた重い箱を抱へて2等車の一隅に席を取つて出發を待つて居た。8月17日に航研長距離機のフィルムをBMW會社に於て公開した時に，同じホテルに泊つて居たハインケル博士がBMWのS重役から航研機の話を聞いて，ローストツクのハインケル工場でも是非映寫して欲しいと云ふ希望があつて此の旅行となつたのである。

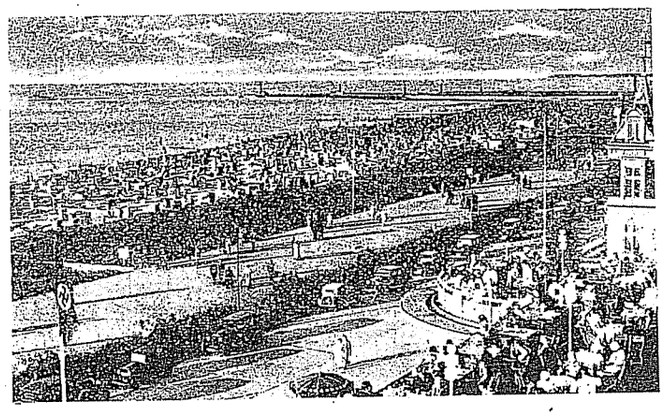
薄黑く汚れたステッティナー停車場の構內を眺めて出發を待つて居ると，やがて4人の頑丈な身體つきをした男達が手に手にパラシュートの包みを抱へて私達のコムパートメントに入つて來た。パラシュートを網棚の上に置いて席を占めた彼等を一渡り見渡すと，どうも何處かで見た樣な顏が一人居る。私は記憶を辿つて一行のキャプテンらしい小肥りの紳士を思出さうと努めて居た。

やがて汽車は一點の雲も無い碧空の下を北獨逸の平原を貫いて走つて居た。黃色いルピネの花は畠や農家の庭を菜の花の如くに彩り，茨竹桃は碧空に紅色の花の枝を擴げて居る。奧深い森の裾にはエリカが可憐な淡紅色の花をちりばめて匍つて居る。將に去らんとする夏のシーズンを惜んで野原に擴げた自然の饗宴は車窓から見ても樂しい眺めであつた。

ノイステルリッツ驛で小肥りの操縱者が立つて驛辨を捜しに出掛けた時の横顏から，私は7,8年も前にアエロノーティックで見たルーマニアの曲技飛行士F大尉である事に思當つた。當時の大尉は今は將軍であらうか，往年曲技飛行機を驅つて歐洲の曲技飛行大會に其の人ありと知られた名操縱者も相當の年輩になつて居る。彼の部下3人はどうしても話掛ける氣持が起らない。ルーマニアの註文のハインケル112型戰鬪機の試驗飛行に行くのだと判つたが，遂に話掛ける機會を發見出來ない內にワルネミュンデの驛に着いて了つた。

驛の改札口にはハインケルの宣傳部長K氏が迎へて呉れた。自動車でアラド飛行機會社やハインケル飛行機會社の分工場を遙かに右手に見て郊外に出で，やがてワルネミュンデの東海海水浴場に面したホテルに着いた。部屋を定めてK氏と打合せをする。映畫は午後4時からであつて2時にハインケルに會つて呉れと云ふ話である。K氏に別れた私は1人部屋を出て海岸を散策した。ホテルの前の遊步道を横切つて休憩用の籠が立並ぶ間を汀に出ると，東海の波は冷く白砂を洗つて居る。右手には燈臺とカフエーが白く海岸に屹立して鷗が碧空を背景に群れ飛んで居る。水が冷たくなつて來たせゐか，流石に午前中は海水浴を樂しむ人もなく，休憩籠はどれも空の儘に海に向つてうつろな姿を並べて居るのみである。

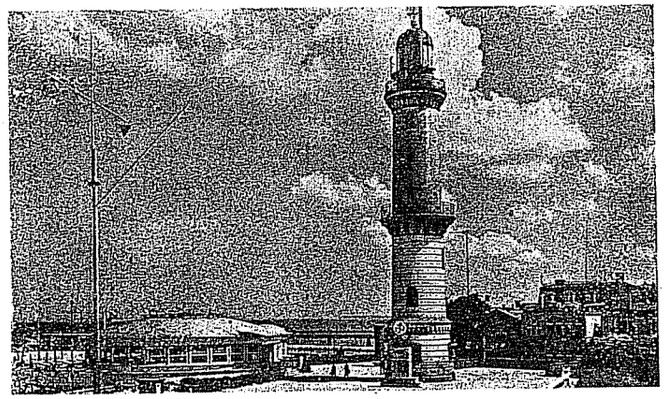
午後2時私達は迎へられてローストック・マリネーエのハインケル試作工場に入つた。今迄見學した飛行機工場と同じ樣に門には服裝いかめしい守衛が立つて，入る自動車を一々止めて客の用向きを訪ねて居る。門の正面右手には寫眞で見覺えのある白堊の3階建の本部が屹立して居る。ハインケル工場の頭腦を入れた設計室は，廣く取つた窓硝子に陽光を受けて光つて居る。左手にはポプラの並木越しに數棟の格納庫が見え，ハインケル111型と115型と其の外に大型爆擊機がエーパンの上に銀色の肌を輝かせて居る。航空省を通ずる見學願ひも此處だけは許されなかつただけに，私は云ふに云はれない喜びを感じたのである。



第1圖　ワルネミュンデの海水浴場

ローストックとワルネミュンデの中間の此の地マリネーエのブルノ宗の寺院の敷地を買收してハインケルが試作工場を建設したのは1933年ナチスが獨逸の政權を握つた直後であつた。今やローストック・マリネーエはユンカースのデッサウ試作工場と共に，獨逸に於て最も完備した試作工場として世間に知られて居るのである。

私達はK氏の部屋に休んだ。K氏はハインケルとの連絡電話を掛けて居る。K氏の机を見ると懷しい故國の航空雜誌が乘つて居る。K氏にことはつて手に取つて頁を繰ると其處には故國の飛行機の姿も見える。しかも日本の飛行機の主なるものには赤鉛筆で印がついて居る。K氏に其の理由を聞くと日本の非常な進步に驚いて後日の參考として赤印をつけて置いたのだと云ふ。彼等の研究心の旺盛な事も驚くべきものだと感心する。彼等は常に世界に目を見張つて居るのである。



第2圖　ワルネミュンデの燈臺

私達はK氏から紀念として贈られた品を受けて3時近くには本部の大講堂と廊下を隔てた控室に案內された。待つて居ると，やがて電話があつてハインケル博士に會ふべく3階に上つて行つた。ハインケルは3階の一番端の三方窓に圍まれた大きな部屋の一隅の机に小さな身體を寄せて待つて居た。

私は今日の招待を感謝してなるべく多數の技術者と話したい旨を述べた。K氏はハインケルの命令でハインケル工場の歷史を書いた一冊の本を持つて來させて其の扉となつて居る自分の寫眞の下

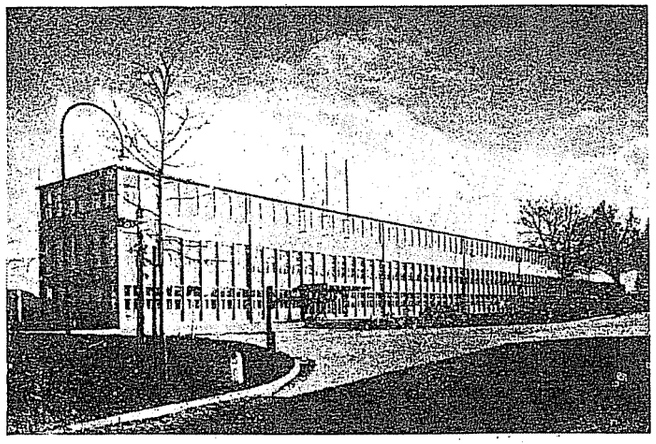
（1）航空研究所

にサインして呉れた。サインして居る内も，卓上の3本の電話は交る交る鳴りひびいて女秘書が電話を受けてメモを控へて居る。氣短かなハインケルの顏は瞬時も休まない。彼はナチス獨逸の興隆に重大な役割を果して獨逸國家民族賞を受け，そして現在も切迫せる歐洲の風雲の下で，よりあはただしい生活を送つて居るのである。

再び控室に戻ると其處には數名の技師が待つて居た。K氏が先づ紹介して呉れたのは去る3月30日ハインケル112U型競速機で，時速646.6粁の速度の世界記錄を樹立し，一躍空軍大尉に昇進したディーテルレであつた。彼は謙讓な微笑をうかべて手を差伸べて來た。次に空軍大尉ディーレ氏や，强度計算部主任P氏，强度計算部員S博士等が紹介された。私達は講演の前の一時を卓を圍んで航研機の記錄の話，ハインケルの記錄の話をした。6月1日ハインケル116型機はローストック，ストラルズンド，ケノヴィッツ間250粁のコースを飛んで航研機の持つて居た1萬粁の速度記錄を破つたのであつた。然し此の記錄はそれから數時間の後に伊太利のトンディ大尉以下3名の搭乘員の乘つたサヴォヤ・マルケッティS82PD型長距離機に破られて，新記錄樹立の電報は獨逸に齎されたのである。斯くて1萬粁コース上の記錄は186.2粁より216粁に，更に236.970粁にと引上げられ，8月6日には佛蘭西のロッシ少佐及びエモン曹長はアミオ310型機で，此の記錄を311.620粁迄も引上げてしまつたのである。7月30日にはユンカース Ju 88 型爆撃機は又2,000瓩の搭載量を積んで2,000粁のコース上を毎時504.786粁で飛んで，新記錄を樹立して居た。輝かしい記錄が歐洲の戰雲を前にしてどんどん更新されて居たのであつた。私達は此の春から夏へのめまぐるしい記錄の進歩を語つた。

S氏は話題を變へて最近の薄鈑構造の理論の進歩に就いて話して呉れた。

やがて4時となつて私は講堂に案内された。800人を入れる廣い講堂は既に立錐の餘地も無い迄にハインケルの技術者達でつまつて居た。ハインケル博士は若い夫人といたいけな子息をつれて中央に席を取つて居た。



第3圖　ローストツク・マリネーエのハインケル試作工場本部。三階の左端の部屋はハインケルの事務室

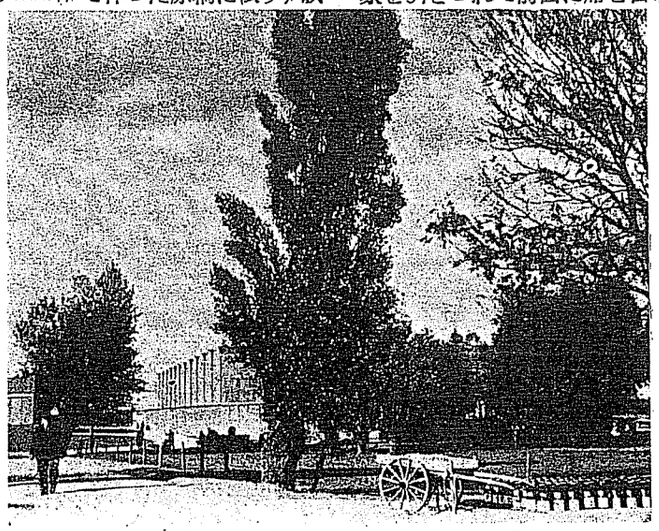
會は技師長S氏の挨拶で始まつた。彼は私を紹介して此の飛行機が航空研究機關に於て設計された點は特に注目すべきものである事を强調した。日本では我我は研究所で飛行機を作ると云つて蔭口を云はれたものである。成程物は考へ方に依ると私は彼の演說を聞いて當時を思出して居た。

S氏の演說が終つて私が演壇に立たされた。私は長年訪れる希望を持つて待つて居たハインケル工場訪問の機會が此處に到來して，本日ハインケル博士の招待に依り其の工場の本部を訪れる事が出來たのを感謝する事を述べ，次に日獨の提携は我々を友人にしたのであるが，然かも航空機の記錄の樹立ではお互に平和の戰に於ける敵手として

挑戰したいと云ひ，更に數日の後には私は獨逸を立つて故國に歸り，獨逸で受けたよき刺戟を以て新しい戰ひに向はうと結んだ。

私はマイクロフォンの前で汗をかいて漸く原稿に書いた之だけを朗讀して，ハインケルの技術者が我々の意氣だけは判つて呉れる事を期待して降りた。之は私だけの强がりではなく，日本全體の航空技術者の意氣である事を彼等が諒解するに違ひないと思つたのである。

フィルムはやがて銀幕に躍り私に代つたS君は過日ミュンヘンのBMWで作つた原稿に依り，映畫の說明をして呉れた。再び懷しい場面が繰展げられ，今は無き藤田中佐の溫顏は現はれては消えて，全てを隔意無く話して呉れた心の友を懷しむ情は，異國の講堂に在るを忘れさせたのであつた。



第4圖　ローストツク・マリネーエのハインケル工場

控室に戻つた我々は今處で數名の新聞記者に圍まれて話をさせられた後，送られてホテルに歸つた。東海には夕闇が薄く迫つて居た。私は再び一人ホテルを出て右手の海岸を散步して，燈臺の下をまはつて漁港の夕を一人の旅人として魚のにほひを嗅いで海に來た喜びを味つた。此處には新鮮な東海の魚が陸揚げされて，漁船の檣は漁夫の動きに搖れて居た。

漁港をまはつて靜かな町並に入ると此處は既にシーズンの過ぎた避暑地のアパートが灯も無く並んで，白いカーテンが步道近く冷えびえと夕暗に浮上つて居る。

硝子張りの食堂に樂しい魚料理を味つて，ハインケル博士から招待されたクーアハウスの野外音樂會に向ふ。今宵は夏のシーズンを閉じる音樂會がコンツエルトガルテンに催されて一夏をワルネミュンデに過し，殘つた人々は東海沿岸に駐屯する6隊の空軍の音樂隊の管絃樂に往く夏の一夜を樂しむのである。

私達はK氏の案内で一段高く作られたクーアハウスのテラスに席を占めた。ハインケル博士は一家を引きつれて前面に席を占めて居る。左右にはバルカン諸國等のハインケルの客が集つて居る。私達はK氏と技師長S氏と若い技師2人である。ボーレの杯に思出多い音樂會が始まつた。

空軍音樂隊は群集に圍まれた廣場に現はれて勇壯なマーチを奏し，古典音樂をかなで，かくて晩夏の夜氣は次第に闇の中に淡い霧の如く這ひよつて來るが，ボーレの杯は人々の心を樂しくして行つた。

我々は飛行機の話に次第に熱を帶びてハインケルと10數年も苦樂を共にしたS氏が話題を提供し議論がはづんで居た。K氏は遂に伯林と東京の間を最初に無着陸飛行をやるのは日本か獨逸かと自信ありげな質問をあびせて來た。私はそれは獨逸に違ひないではないかと云つてK氏とS氏の顏を見た。K氏は何故そんな斷言を下せるのかと反問して來る。私はそれは北半球では西風があるから

だとあつさり答へる。

廣場の音樂はやがて最高潮に達して破れる樣な拍手と共に終り，やがて廣場の灯は一齊に消されて眞の闇となつた。杯に反射する透明な光が闇の中に眞珠の如く光つて居る。と靜寂を破つて勇壯な喇叭の音が聞えたと思ふと，鐵兜を付けた兵士が手に松火を持つて獨逸特有な膝を伸ばした儀禮歩調も勇ましく廣場に入つて來て正面を向いて整列した。一しきり靜寂が廣場を支配する。やがて囂喚たる音樂が最後の晩の最後の音樂を奏する。一音節毎に急速に冬に轉廻する北國の季節の移りかはりを惜しむのか，將亦一音節毎に平和は硝煙に覆はれ行くのを運命と感ずるのであらうか。

やがて樂の音ははたと止んで，隊長は出て夏のシーズンを終る言葉を述べる。終つて一瞬突如10數個の炬火は兵士の手から地に落され，陽やけした兵士の顏が闇の中にあかくくまどられる。殘んの火は勢ひを失つて最後の火花を闇に吹上げて消えた。夏のシーズンは終つたのだ。闇の中から之等の兵士は戰場へ飛立つのではないだらうか。

ホテルに歸つた私は印象深い今宵の音樂會の追想に耽つて居ると，淋しくなつたサロンの灯の中に突如なつかしい同胞の顏があらはれた。3人の友は數日後には伊太利に立つ豫定の私をかこんでビールの杯をあげて呉れた。

翌早朝私はもう一日ワルネミュンデに止らないかと勸めて呉れたハインケル工場の人々の勸誘を斷つて6時の汽車で伯林に向つて居た。情勢は刻刻迫つて居る事は旅人の私にもひしひしと判つたのである。

昨日と同じ平和な自然は碧空の下に和んで，綠の牧場にのどかに草を食む牛や羊の群れは平和其のものであるが，見よ，鐵橋のたもと，ガードの下には戰鬪帽を被つて小銃を肩にした突擊隊員や親衞隊員が，いかめしい張番に立つて居るではないか。私の心は既に伯林に在つた。ステッティナー停車場は既にタクシーの數も少くなつて居る。

下宿に歸つた私は鍵をポケットに捜すももどかしい思ひで部屋に飛込むと主婦のフリーダが突然入つて來て顏を紅潮させて「日本人は全部伯林引揚げに決つた。恐らく獨ソ不可侵條約に日本が憤慨して居るのだ」ととんでも無い見當違ひの判斷をして居る。卓上に置かれた封書を取つて開いて見ると日本人會の指令である。

「國際情勢緊迫せるを以て在獨邦人は出來るだけ速かに漢堡に待機中の靖國丸に乘込むべし。靖國丸の漢堡出帆は明後日の豫定。明日日本人會より漢堡向け荷物を發送するに就き速かに日本人會に荷物を屆けるべし。」

私は遂に豫期したものが來たなと云ふ感じであつた。伊太利は遂に見られなくなつた。故國を立つ時から私は在外中に國際情勢の緊迫があると云ふ事を考へて居たのであつた。一度はミュンヘン會議前後の緊迫した國際情勢下に紐育に足止めされるのを恐れた事もあつたのである。ニューヨークタイムスの電光サインの下に不安な一時を過した昨年の9月が想起されたのである。

然し荷物は既に大部分靖國丸向けに送つてある。殘りの荷物も既に片附いて居る。

殘つた書類は束にしてトランクの中にしまつてやがて虛ろな一時である。半年を過したなつかしい部屋に腰を落付けると，主婦は今更戰爭は絕對にないと云つて引止めようとする。

主婦が最後の心盡しに作つて呉れた晝食を終り先づ正金銀行支店にタクシーを飛ばして殘りの磅と馬克を弗にかへ，大使館に友人を訪ねて情勢を聞き，今朝持つて歸つたフィルムを再び大使館に托して，一通り各所に挨拶に廻つて下宿に歸ると友人の電話である。獨逸人や獨逸人を知つて居る日本人の誰彼は決して戰爭にならないと云ふのが

定例である。然し大使館の勸告は明日にも獨逸を離れる事を勸めて居るのである。

なつかしい伯林の街に晩夏の灯が入つて散り行くリンデンの梢越しに都會の雜沓を眺めて居ると過去6ヶ月の思出はつきない。然し夕闇の中に響く廊下の電話にかゝると情勢は愈々切迫して來て居る事を告げたのである。情報の主は云ふ。「靖國丸は先づ丁抹のエスベルグに避難して情勢を觀望する豫定であつたが，既にスカゲラック海峽には航空母艦を伴ふ英國艦隊が游戈して居る爲豫定を變更してノールウェーのベルゲンに避難する豫定である。英國艦隊は開戰と同時にスゲグラック海峽より白佛の國境迄機雷を敷設するものと思はれるので，靖國丸はなるべく早く封鎖線を突破する爲27日早朝には漢堡を出帆することゝなるであらう。」

私は急いで1個のトランクを抱へて近くの日本人會に向つた。既に入口には澤山の同胞の荷物が積まれて日本人會の書記は其の應接に急がしい。讀書室には情勢を案ずる同胞がラジオの前に額をあつめて居る。

殘りの一夜を親しい友人と語り，やがて一人最後の夜を想出多い街々に出る。

下宿に歸ると主婦とそして僅かの滯獨中に識合つた獨逸人がビールを整へて待つて居た。私は之から或は永久に合ふ事がないかも知れない人々とあはただしい日の前夜を語合つた。彼等は異口同音に戰爭にはならないから，やがて再び君と伯林であへるだらうと云ふ。然し英國は今度は絕對に第2のミュンヘン會議をやらないだらうと云ふのが私の見通しだつた。

私は此の家に下宿してから主婦を通じてあらゆる獨逸の事物と慣習を知つた。主婦は私に獨逸を知らせる事に興味を覺えて居たらしかつた。私は下宿人の中で最も主婦とよく語り，主婦は大部分の夜を自室で過す私によく留守を賴んで外出した。毎週火曜日には防空訓練があつて，決つて7時から9時迄私は留守居をさせられた。主婦は時に防空訓練が終つた後で親類に寄つて11時過ぎて歸つて來たりした。そんな時は面白くないので私は云はば客であつて留守番の爲に此の家にやつて來たのではないと大いに文句を云つたりした。そんな時には人のよい主婦はいかにも悪い事をした樣にあはてゝ私のベッドを作つて，どうかお休みなさいと私の氣嫌をとつたものである。

前大戰で愛人を失つた彼女は又戰爭がいやで堪らなかつたのである。今度戰爭が始まつたら首をくゝつて死んで了ふと云ふのは彼女の口ぐせであつた。「あゝそれが人生さ」と云ふのも彼女の口ぐせであつた。

午前零時私達は握手をして各々の部屋に引とつた。最後の夜を私は部屋に灯をつけて想出をたぐつて居る內にいつしか夢路に入つてしまつた。どの位眠つたであらうか，突如私は夢の中から空を覆ふ響音に目をさまされた。轟々たる爆音は深夜の伯林の家並の上を果しなく後から後からと渡つて行く。

新刊紹介

◇小林喜通著 "飛行機の鋲打作業" 本誌に現在，治具作業について連載されつつある，航研囑託，横濱高工講師たる著者が，鋲打作業のみについて研究體驗したものの集大成である。鋲打作業が近代航空機工業において，最も樞要なる地位を占めてゐることは今更言ふまでもないことであるが，それでありながら鋲打作業に關する良書は，內外ともに未だ一册もない今日，この書の出版されることは，その意義まことに深いものがある。

（定價3圓80錢・東京澁谷代々木上原町1'34 …航研書房發行）